

# 10日間での経験

★初めに…

8月17日から10日間中国・深セン市観蘭という街に行き、日本の中小企業が中国進出するにあたりそれをサポートするテクノセンター（日技城）という所でお世話になりました。私たちの身の回りには中国製がたくさんあります。例えば、よく行くユニクロや100円ショップは全部中国製です。こんなに身の回りには中国製が多くて、急速に経済発展を成し遂げている中国との関わりはますます重要になってきています。だから、中国語を習いたいと思いついてこの学科に入りましたが、実際は中国に行きたいと思わなかったし、日本で生活している間は中国製だと聞くと不安になり、中国製を避けて物を買っていました。中国との関わりがますます増えていく中で、中国語を習っている私が、偏見を持つてはいけないと感じ、就職活動

が始まる前に実際に従業員を見たいと思いました。悪い情報だけを信じてはいけません。自分の目で確かめて中国への見方を変えたいと思ったのがきっかけで、このテクノセンターに参加してみようと思えました。そして、同じゼミの阿部美里さん、鎌田百合さんと共に深センへと出発しました。

★テクノセンターに行ってみて…

実際に深センに来てみて、正直驚きを隠しきれませんでした。匂いがキツくて日本では考えられないほど路上にゴミが捨てられていました。テレビで見たことがある風景ではあつたけれど、貧富の差が酷いと改めて感じさせられました。その後、寮に案内されましたがここで10日間は無理だ！と心の中で嘆いていました。シャワーとトイレが一緒になっていて、二段ベッドが6つ並べられてい

外国語学部  
中国語学科3年

坂下 志保

る寮。和式トイレをまたぎながらのシャワー。ベッドと言ってもベニヤ板がしかれているだけで今にも壊れそうな感じでした。ここで10日間か…と考えると辛くなり、阿部さんと鎌田さんと泣いた日もありました。

そして、さっそく18日から企業訪問を行うために自分たちでアポイントを取りましたが、電話1つでもこんなに大変なのだとしみじみ感じました。言いたいことが全く伝わらず、電話を途中で切る企業も少なくありませんでした。語学力がなさすぎる自分に、ただただ呆れるばかりでした。本当に悔しかったです。アポイントを取り、下着製造のピーチジョンさんや対松堂さんなどの企業を訪問しましたが、私が一番印象に残っているのがテレビの配線製造会社の久田さんのお話です。私たち大学生を相手に自分の人生を詳しく振り返って



左2番目から雪さん(20)、●●さん(●)、古さん(35)、李さん(23)



10日間共に生活したルームメイト。李さん(23)、古さん(35)、雪さん(20)



テクノセンターで生活している間にお世話になり、たくさん話しをしてくれた保安官の方。この2人の「ニーハオ!ニーハオ!」と元気に返してくれるこの笑顔は今でも印象に残っています。

夜には、寮の前にある卓球場とバスケットコートで運動しました。毎日、卓球とバスケットをしました。このスポーツの時間は言葉が通じなくてもお互いに思いっきり楽しめたのでとても思い出に残っています。今では、コンクリートでできたあの不安定な卓球台が恋しいです。

企業が休日の週末には1時間程かけて深セン市内へ遊びに行きました。出発前、観ランは治安がとても悪いと聞かされていたのでとても不安でした。しかし、ガンランの方々も、深セン市内の方々も、寮の方々も、皆本当に優しい方でした。分かるまで道を教えてくれたり、「早上好!」(おはよう)、「你好!」(こんにちは)、「晚上好!」(こんばんは)、を明るく言えば、笑顔で返してくれたり、皆いろいろな話をしてくれました。とくに、保安官の方々からたくさん話してかけてもらいました。

くれました。やりたい仕事、夢がきまっていなくて何をすればいいのかわからないとずっと焦っていた私ですが、久田さんの話を聞いて、いつか絶対自分に合った仕事ができると確信を頂きました。久田さんの会社で働いている従業員は全員、久田さんを信頼している!というものが伝わってきました。このような会社に私も巡り会いたいという目標ができました。

平日は企業訪問が終わるとルームメイトと筆談会話をしました。子供がいるけど遠くから出稼ぎに来ている方・同年代の方もたくさんいました。成人式での着物姿を見せて日本の文化について話したり、「三つ編みと編みこみを教えて」と言われたので、実際にルームメイトの髪の毛で三つ編みと編みこみをしてあげました。その嬉しそうな笑顔は、本当に可愛い女の子でした。

★最後に：

テクノセンターでの生活は本当に短い間でしたが、こんなに身近に同世代の子達と一緒に生活できるなんて、絶対体験できることはありません。家族を養うために遠い田舎から出てくるのは当たり前前の状況でした。16000元/月(約2万円/月)という日本では絶対ありえない賃金で、私達の身の回りの物は作られているのです。その働いたお金は実家の両親に送るというのが当たり前で、自分に費やすお金などほとんどありません。その状況を目の当たりにして、中国製は信用できないと少しでも思っていた自分が恥ずかしくなりました。仕事に打ち込んでいる姿は、想像以上にはるかに真面目で、全ての事が、私が思っていたこととは違うのです。出発前とは明らかに中国従業員に対しての見方が変わりました。私の語学力があれば、もっともっとたくさんの方々とコミュニケーションがとれたらどうし、ルームメイトとも、もっともっと深い話ができたと：と菌がゆさを何度も味わいました。語学力をアップさせたいと心から思いました。中国に対する見方や考え方が今までの自分とは、おもいっきり変わったなと実感しています。このような気持ちに変化できたのは、辛い状況も全部経験して楽しいように変えようとしたからです。こんなところで生活できない！と最



テクノセンターで出逢った方々。関西大学や長岡大学、筑波大学、など日本全国から集まっています。最終日には皆で火鍋という中華料理・青島ビールをテクノセンターの総経理に奢って頂きました。

初は思いましたが、他の所でいい面を探しました。スポーツをして人と触れ合ったり、美味しい店を探したり、自分たちで楽しみを見つけていろいろ経験しました。たった10日間なのにそれ以上に学んだことは多くて、今振り返っても10日間とは思

えないほどの濃い生活を送りました。情報に惑わされるのではなく何事も自分で確かめてみる。それが大切だと感じました。言葉が通じなくてもお互いが一生懸命伝えようとし、一生懸命聞こうとする、その姿勢が一番嬉しかったです。